



光なき影 ア = バオ・ア・クウー

少女調教日誌





街のはずれの塔を踏破した者は
光の世界へいけるといわれていた……。
私は、その塔を攻略中に1人の美しい少女と出会った。
少女はそのまま立ち去ってしまったが
私は一瞬で少女に惹かれてしまった。
その後、どれくらいの時間が経ったのだろうか。
ついに塔の頂上までたどり着くことが出来たのだ。

光が満ち、その世界へと私は歩み始めると
美しい声が聞こえたのだ。
「さあ、願いをどうぞ」
なんと、光の世界とは願い迄叶えてくれるのか……？
私はゴクリと喉を鳴らした。
脳裏に、網膜に、焼きついたあの少女。
あの少女を自分のモノに出来たら……。
途端に光が満ち、気づけば私の目の前に少女がいた。
ベッドと簡素な机しかない部屋、机の上にノートとペンがあったため
これを記している。
私と少女は今、2人きりであった……。

1日目

目の前に現れた少女は間違いない、あの少女だった。
名をクウーと言うらしい。とても無口な子らしく、
これのみを語り、あとは黙ったままだった。

本人はこの状況に動揺もせず、ただ無垢で綺麗な瞳をこちらに向けている。
吸い込まれそうなその瞳と、若い少女の甘い匂いが鼻孔をくすぐる。
この後、この子を好きに出来るのだ……
ゴクリ、と期待に喉をならす。
控えめな胸、スラリとした足、ふわふわの髪の毛に、まだ幼い顔立ち。
私の明らかな視姦にすら何の反応も示さないクウーであった。

疲れたのだらうか
気づけばクウは自室のベッドで寝てしまっていた。
近づいても軽く触っても起きなかつたのを
いいことに服を脱がして観察に入る。

まだ発育中であらう少女の小ぶりの胸が露わになる。
白い肌を彩るように桜色の乳首が情欲を煽る……。

次は少女の秘部へと手を伸ばす。
興奮冷めやらぬまま、たまたま着用しているタイツごと破いてしまった。
そのまま下着をずらすと少女の年齢らしく、ぴっちり閉じた性器が露出される。

年齢的にまだ生えないのだろう。
まだ幼い女性器を視姦するという行為に
股間がはち切れる勢いで興奮を覚える。
自分の心臓の音が股間と同調するかのように脈打っていた…。



クウーが目を覚まさない事をいいことに行動はエスカレートしていく。
クウーの女性器は俗語でいうおまんこを拡げるとそこにはまだ処女膜があった。
まだ誰も手を出していない少女の未開発のおまんこを見て、開拓するかのように舌を伸ばす。

ピクリ……とクウーが反応を見せる。
その反応が嬉しく、クリトリスやおまんこをじっくり愛撫していく。
徐々に汗ばみ、男の唾液とは違う、クウーの愛液が混じっていき
私の口を汁浸しにしていく……。

クウーの膣を犯し続ける。
破瓜の痛みにも慣れたのだろう。快楽を感じだしたのか、
身をよじるしか出来ないクウー。

は……ま……

あ……ッ……

は……は……

涙目でこちらを見つめるクウーが
また可愛らしく、ピストンが激しく
なっていく。小さな喘ぎ声が余計に
響き、興奮が渦巻いていく……

は……

は……

は……



ヒューン

ん
い

ガッ

ガッ
ガッ

ン
ン

ン
ン

ン
ン

クウーの膣内に容赦なく射精をする。
小さな子宮から精液が逆流するほどの子種を注ぎ込まれる。
この日からクウーへの調教が始まったのだった……

3日目

クウーにフェラをさせながら
同時におまんこを弄る。ぴっちり
閉じていたおまんこはもう2本の指を
咥えるようになっていた。

おまんこ

おまんこ

ぬ

ガッ

カッ

おまんこ

苦しみと快楽が同時にクウーの体を襲う。
もう何度も絶頂を繰り返している。
むせ返る程の汗と愛液の匂いの中
必死にこの行為を終わらせようと
懸命に舌を伸ばすクウーが愛おしく、まだ
終わらそうになかった……

7日目

フエラに慣れてきたので今日は趣向を変えてみた。
クウーのおまんこを舌で割り舐める。
この小さな体の少女を自分の手で開発していく悦びを
どう表現したらいいだろうか。

クウーの甘い声と共に膣の奥から愛液が漏れ出る。
自分がイカされる前に私をイかせようと懸命に手と舌を使って
じごいてくれるところもまた可愛い。



14日目

いつの間にか机の上に玩具が揃っていた。
光の世界とは何とも都合がいい。
早速クーーに使用してみる。

流石のクーーも強い刺激に大声をあげる。
この前まで何も知らなかった少女の乳首とおまんこが
秒数単位の刺激にあっけなく潮吹きまでしてしまう。
涙を流しながら情けないまでにいき狂うクーー。
私は更にレベルを上げ、またイカせることにした。

21日目

おちんぽを美味しそうに咥えながら自分のおまんこを弄るクウー。
毎日イラマチオと愛撫を繰り返すことによって、バブプロフの犬が如く
ちんぽの匂いを嗅ぐだけで興奮を覚えるようになってきたのだ。

ちんぽを出すだけで
快楽を求めて舌を出すまでになった。
最初の頃とは違い、徐々に、確実に、淫乱になってきた……。



28日目

クウーがついに笑顔を見せてくれた。私が近づくと自らスカートを持ち上げ濡れたおまんこを見せつけるようになったのだ。

騎乗位をしながらもちんぽを喜ばせるため、先端をグリグリと押し当ててくる。最初の頃は涙を浮かべていたのに……。今や快樂の虜なのだろう。はじたなく腰をうねらせていた……。



45日目

クウーのメスとしての才能が開花したのだろうか。
最近ではクウーの方から積極的に誘惑してくるのだ。

まだあどけなさが残る少女にも関わらず
まるで娼婦のような手際の良さに驚きを隠せない。
しかし、私の日々の調教の結果と思うと
ドクドクと金玉が脈打つのを感じる……。
今宵もクウーの膣内で果てられることに
幸せを覚えつつも抱くのであった。

? 托シ撰ジ? 日目

もう少女とは呼べぬ程の淫乱さであつた。
絶頂を繰り返したことにより、肥大化した乳首やクリトリス
男を知つたいやらしい笑顔……

少女は笑みを浮かべながら
私を絶頂へと導こうと腰を振ってくれる。

なんて幸せなんだろう。この幸せな日々を綴ろうにも
もうペロジがない。以降は私の心蠢?? 豈ユ 縛オ 蛻サ 縋? % 縛イ 縛イ 縛励

あーん

あーん





……ねえ？
何をしてるの？



あ、シロキネ…
シロキネ…



……あ
さっき見かけた
旅人さん…



かわいそうに…
影だけじゃなく
体までたべられ
ちゃうなんて…

ははは
ははは



おやすみなさい

いい夢を



はじめましての方ははじめまして、いつもの方はこんにちは
鈴音れなです。

今回はクーちゃん！初見から超可愛いと思って二チャしてたんですが
後からまさかのクーちゃん本体は違うのわらいました
処女喪失にページ割きすぎた結果、なんか全体ページ増えましたが
その分エッチなので許してほしいです
個人的にオチ含め結構気に入ってます
こういう1ページごとにどんどんえっちになる形式の漫画結構いいなあと
思ってるのでまた描きたいです！
それではどこかでまた会えたら嬉しいです！よき決闘者ライフを！

鈴音れな

発行日：2026年5月16日

発行者：鈴音れな(Lonely Church)

印刷所：サングループ様

連絡先：suzunone_rena@yahoo.co.jp

Twitter:@suzunonerena

未成年の閲覧、譲渡並びに二次配布、無断転載は禁止

この作品は二次創作品です。処分の際は必ず

ガムテープなどで巻いて適切に処分してください。

▼DLsite



▼FANZA



Sonely Church